

・深度60.85～61.12mの「粘土混じり角礫状」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

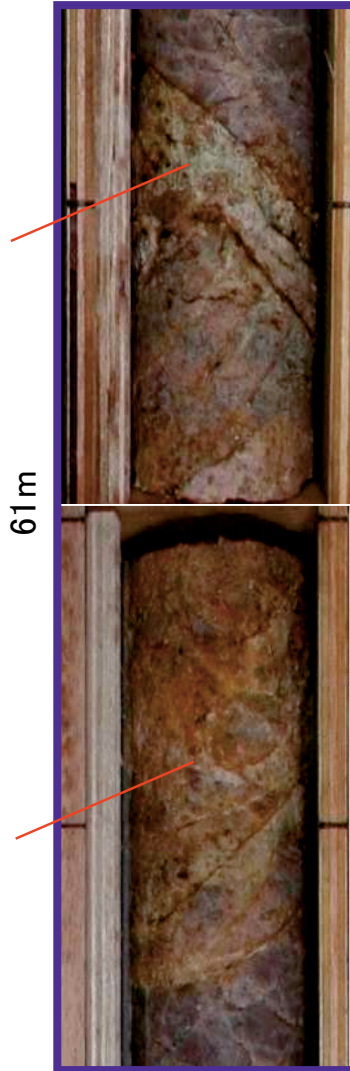
●60.85～61.12m：破砕部
粘土混じり角礫状部（H）
上端40°、下端50°でともに直線的に連続。径5～30mmの硬さ「C」の角礫からなる。明黄褐～緑灰色を呈する。

コア写真



凡例
← → 破砕部範囲※
※: 写真上は白色で記載

細粒部が網目状に分布する



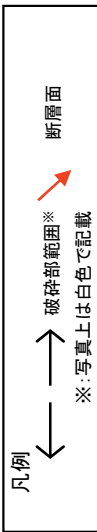
青砕部拡大

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

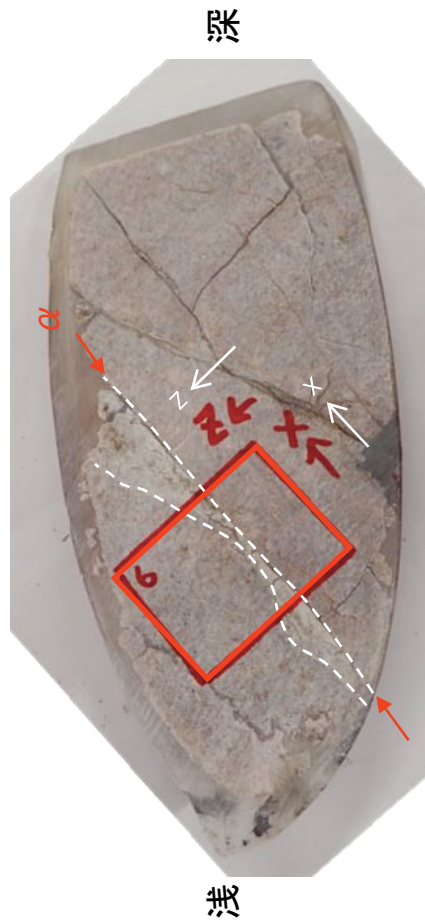
コア写真



※断層面 α は最新活動面

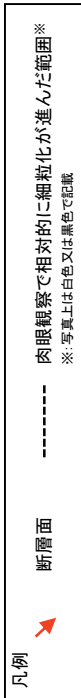


薄片作製位置写真

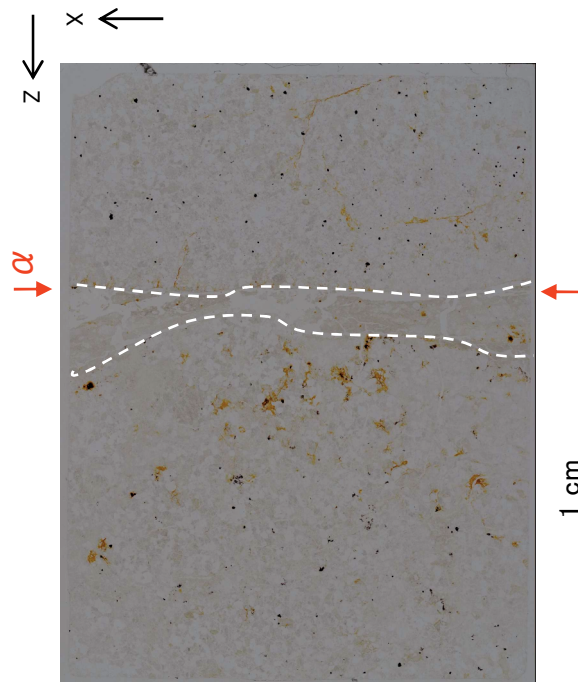


薄片作製位置

X: 条線方向 (下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向 (上蓋側を正とする)



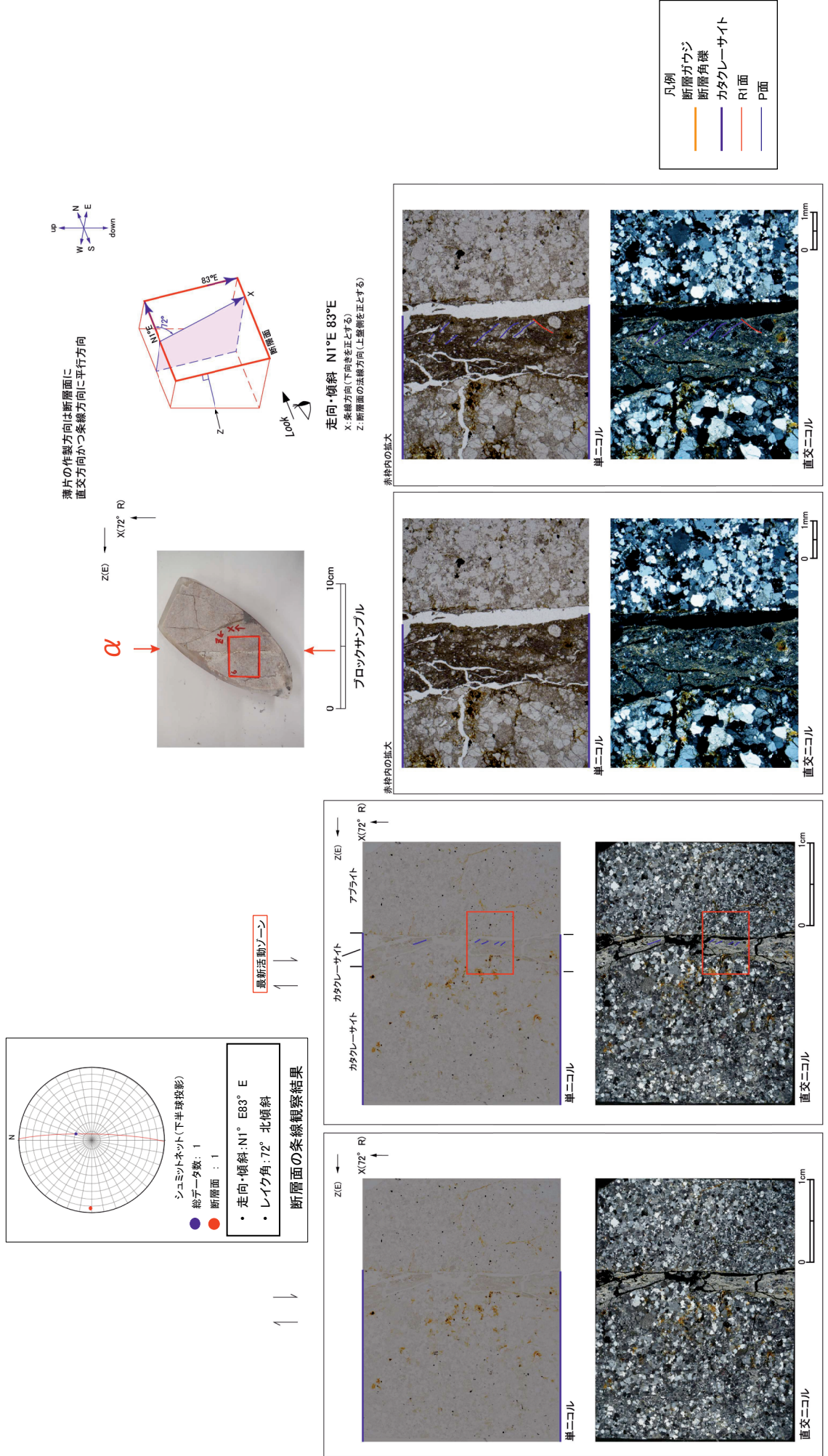
薄片全景写真 (単ニコル)



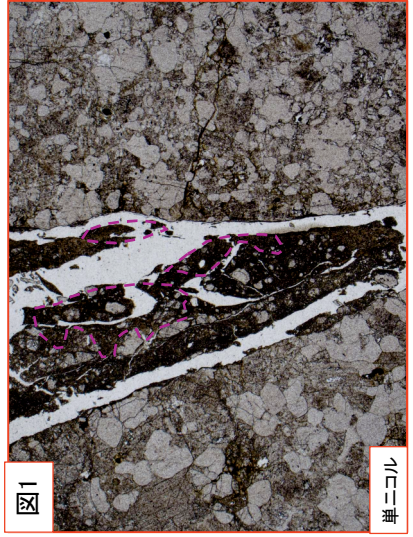
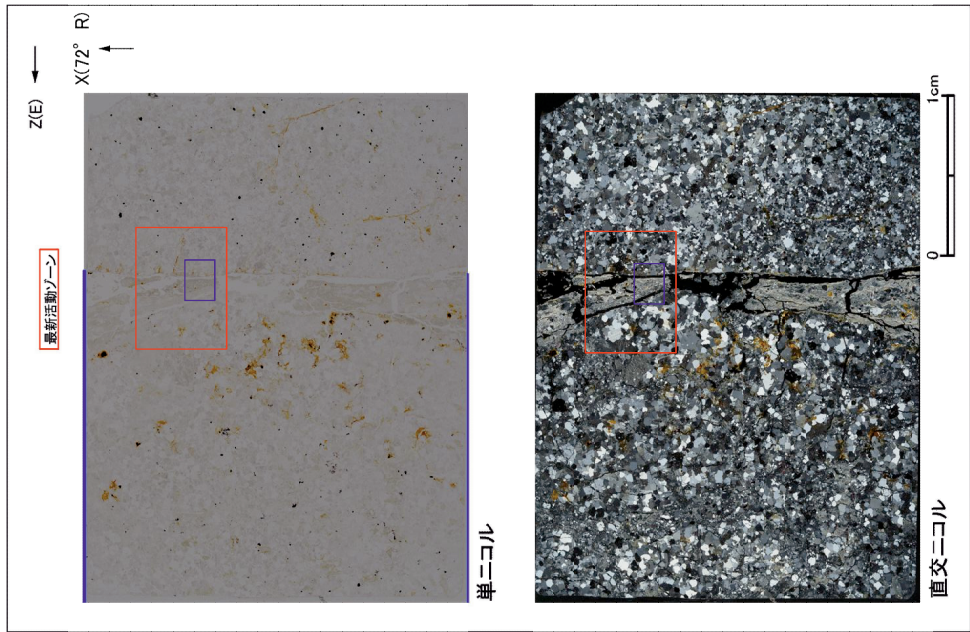
X: 条線方向 (下向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向 (上蓋側を正とする)

- ・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。
- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。
- (カタクレーサイト) 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

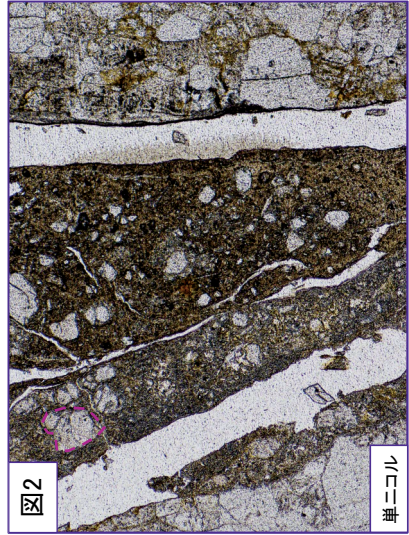
※断層面 α は最新活動面



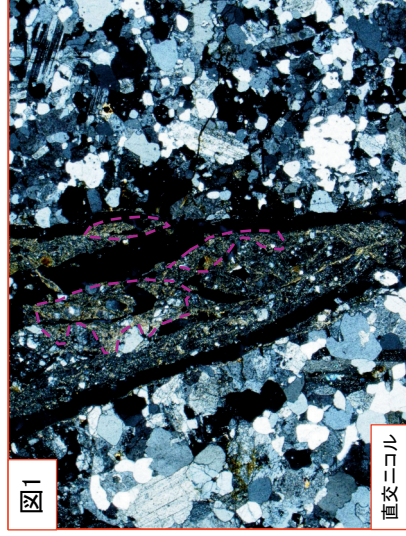
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。(図1)
 - 岩片は少ない。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



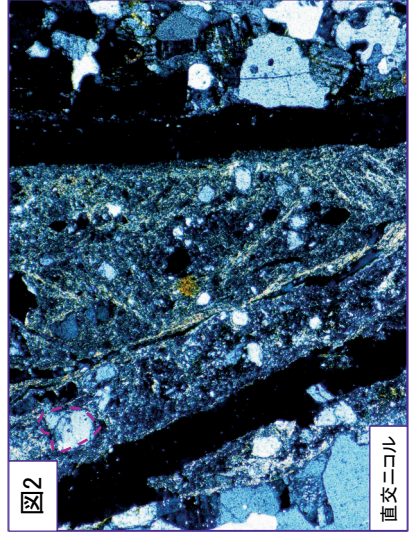
破線は粘土状部の分布範囲を示す



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



1 mm



500 μm

(肉眼観察位置 深度61.12m)

- 肉眼観察では、粘土混じり角礫状部の細粒部は、硬質であり、含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められることからカタクレーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。
 - 岩片は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
 - ジグソー状の角礫群が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由からカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土混じり角礫状部のやや硬質な細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
無	-	-

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度101.47～101.50mの「粘土質砂状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は、下端のフィルム状の細粒部を除くと、網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度101.50～101.52mの「粘土混じり砂礫状」と記載の箇所については、硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことからカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

● 101.47～101.52m：破砕部
 101.47～101.50m：粘土質砂状部 (Hb)
) 傾斜25°で直線的に連続。下端に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2～5mmの岩片を含む。変質が進み、灰白色を呈する。幅30mm。
 101.50～101.52m：粘土混じり砂礫状部 (Hj)
 上端25°、下端20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白～明褐色を呈する。幅20mm。

コア写真



凡例
 ← → 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

細粒部が網目状に分布する

灰白色細粒部

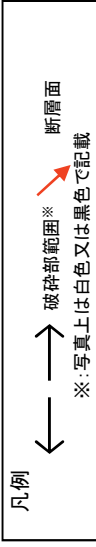
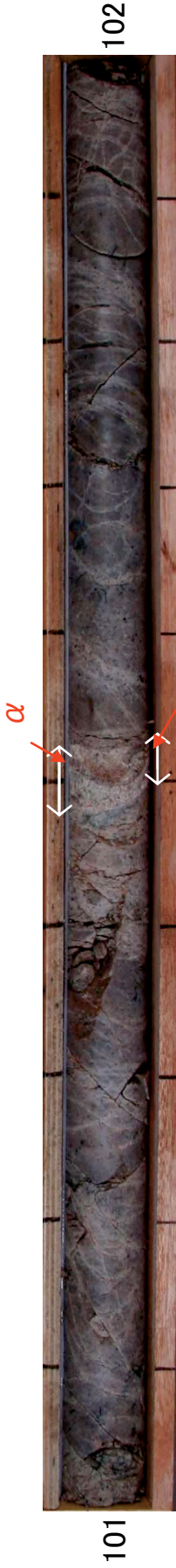


青枠部拡大

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

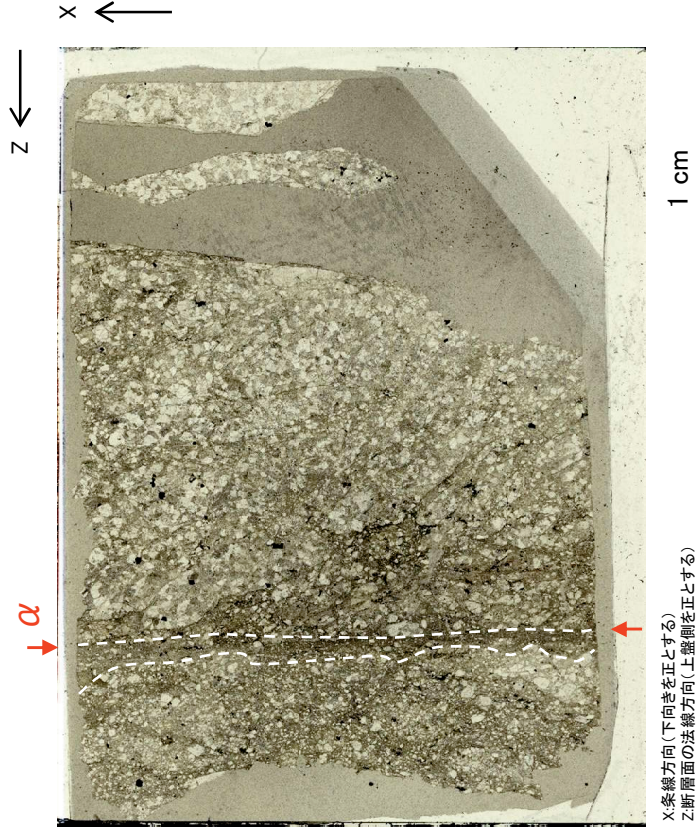
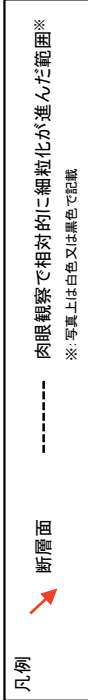
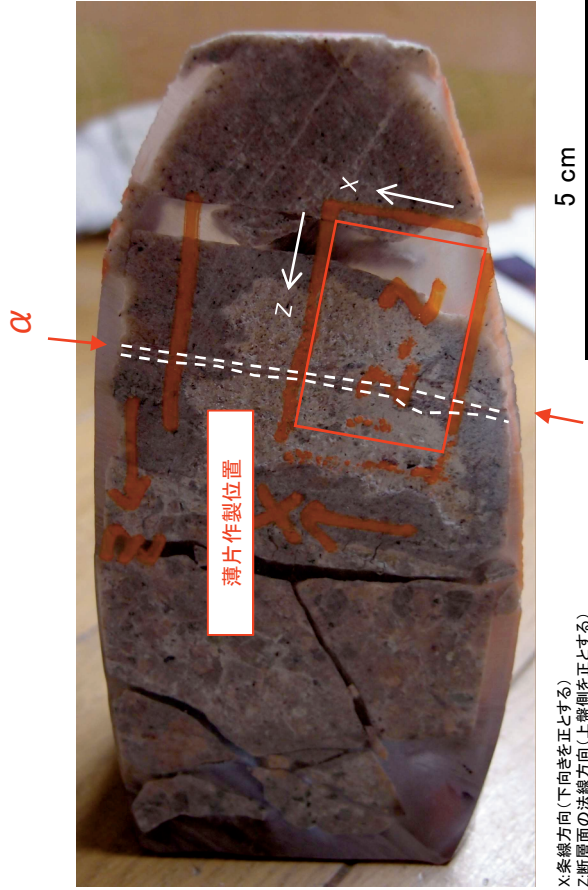
コア写真

※断層面 α は最新活動面



薄片作製位置写真

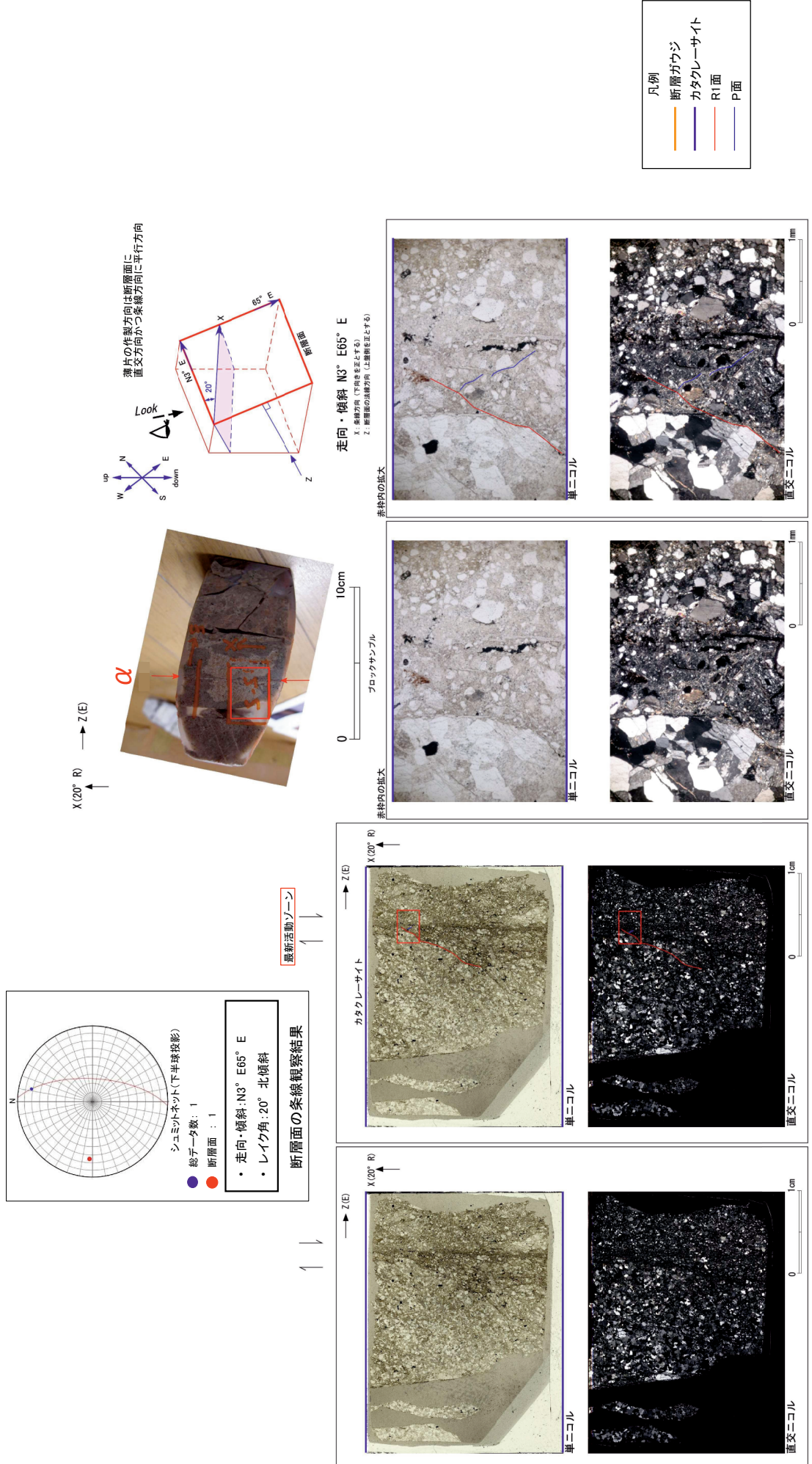
薄片全景写真(単ニコル)



・H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトののみならず破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った粘土状部の分布は局所的である。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

※断層面 α は最新活動面



第7.4.4.307図 (3) 破砕部性状 H24-B14-2 深度101.47~101.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))